



上智大学短期大学部

SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

令和7年(2025年)12月5日

通信 第102号

編集・発行 上智大学短期大学部

『上智大学短期大学部通信』最終号の刊行に際して

学長 山本 浩



まことに残念ですが、『上智大学短期大学部通信』は本号が最終号です。本学は2025年度以降の学生募集を停止し、最後の入学者となった2024年度生の標準修業年限である今年度が一つの区切りになります。そのため、本号をもって廃刊することにした次第です。

『上智大学短期大学部通信』(校名変更までは『上智短大通信』)は1980年3月に創刊されました。上智短期大学が創設されて7年目、ジェラルド・バリー初代学長のときでした。それから45年間『通信』は本学の教育・研究・社会貢献に関する出来事やニュースを教職員・在学生・学生の保証人・卒業生に伝えてきました。とくに、秦野キャンパスから離れて生活されている保証人や卒業生には『通信』を通して本学の動向を知っていただけたのではないかと思います。

最終号を刊行するに当たって『通信』の読者の皆さんに感謝申し上げます。

『上智大学短期大学部通信』を創刊号から振り返る

『上智大学短期大学部通信』は1980年3月21日に創刊され、本号で102号を迎える。残念ながら、本号が最終号となる。これまでの記事から各時代を象徴する出来事や伝統的な行事などを取り上げながら、「上智大学短期大学部通信」を振り返ってみたい。なお、各記事の内容は要約もしくは抜粋となる。

創刊号

1980年
3月21日
発行

「創刊のあいさつ」 学長 ジェラルド・バリー

このような通信を出したいと創立時から願っていた。本学は4月で創立8年目を迎え、卒業生は1,600名に達した。この『上智短大通信』が卒業生一人ひとりに、秦野で送った2年間の楽しかった日々をよみがえらせ、また卒業生、父兄の皆さまに短大の現況を知っていただければ、目的の一つが達せられる。上智短大の成長とともに心のつながりの場として、『上智短大通信』が末ながら発展することを願う。



「創立10周年を迎えて」

学長 ジェラルド・バリー

上智短大は昭和48年に上智大学の姉妹校として創立され、開学に当たっては、東京から離れた神奈川県秦野市という地域性、短期大学という2つの点が考慮された。短大の創案者は当時のヨゼフ・ピタウ理事長であった。10年間で色々な変化があった。入試は最初の2年間は筆記と面接の両方であり、授業の始業は8時半、8時50分、9時、9時20分と変わった。新入生の大山登山はスポーツ・デーや文化祭に代わった。変わらないのは毎年志願者に恵まれ、学生は勤勉であること。卒業生は2,400名を超え、海外でも活躍している。母校と連絡を密に取りながら、成長してほしい。

第12号

1983年
11月26日
発行

第13号

1984年
3月21日
発行

「愛と感謝の心を—ピタウ師 創立十周年記念講演—」

この10年を顧みると、本学が素晴らしい成果を上げていることがわかる。教職員の皆さま、そして既に社会で活躍されている卒業生に敬意を表する。本学の教育理念であるキリスト教は、簡単に言うと、神が愛をもってこの世を創造されたこと、この創造の原理を恵みとして受け取るならば、そこからすべてのものへの感謝の気持ちが現れる。そして、共通の目的をもった共同体を作ることも、キリスト教の奥義の一つであるエクソドス(脱出)と密接につながる。在学生の皆さんは、一緒に共通の目的に向かい、ゆっくり確実に前進することが大切である。わずかの時間でもよいから、毎日自身を省みて祈ってほしい。私たちが皆さんに期待するのは、英語を通して広く世界を見ること、そして、より意義深い人生を歩いて欲しいと望んでいる。



第20号

1986年
7月19日
発行

「汗と青春の輝き 第14回スポーツ・デー」

1986年5月24日(土)、今年もスポーツ・デーが開催された。

(実行委員長による手記) いよいよ競技開始、バレーボール、テニスは熱戦で、低い出席率にもめげず2Cが優勝した。1年生のサッカーは新しい真白なゴールが設置された中、新旧の先生方の団結により、教職員チームが優勝した。2年生のドッヂボールは花も恥じらう20歳の乙女が大騒ぎ、2Eが優勝した。午後はメイン種目の応援合戦で幕開け、惜しみない拍手は互いの士気を鼓舞し合い、努力を認め合う精神の表れだと大いに心打たれた。教職員レースは学生が先生をおびつて走るという、誠に家族的雰囲気に満ちたものだった。綱引きはコリンズ学長が綱に寄るやいなや「ずるーい」の大合唱、教職員チームには叶わない、私はこのスポーツ・デーに参加し、青春の炎を燃やしたこと、上智短大の学生としての誇りになると確信している。

第33号

1991年
2月12日
発行

「戻った活気 天気恵まれた ソフィアジュニア祭」

1990年10月27日(土)・28日(日)に、第13回ソフィアジュニア祭が好天に恵まれた秋空の下、「The United Colours」をテーマに開催された。今年度は準備を4月から始め、例年よりも遅かったが、実行委員会の熱意で進め、特色あるSJ祭を作り上げた。基本方針は「1・2年生が協力すること」、「地域社会に開かれた祭りにすること」。大抽選会やテニストーナメントなど新しい催しも実施され、また県立秦野南が丘高校プラスバンド部の特別演奏が前庭で行われ、学生や来場者が一緒に歌うという和やかな場面が見られた。





1993年
7月12日
発行

「20周年を迎えて これからの20年—上智短期大学の将来—」

学長 ダニエル・コリンズ

上智短期大学の20年間、これからの20年について思いを巡らせ、私の夢について語つてみたい。一つ目は、これからの20年間で卒業生の中から少なくとも一人は小説家が出るのではないかと期待している。なぜなら創造力こそが、本学で我々が培おうと努力してきたことだからである。次に今後、奉仕活動が盛んになり、より平和で正しい社会を築き上げるために多くの卒業生が活躍することを願う。身近なところから消費者として何らかの行動をとることから始め、環境問題に関心を持つこと、難民に勉強を教えることや、高齢者に奉仕活動をすることは見過ごされがちであるが、欠かせないステップである。さらに今後は秦野市により深く関わるべきだとも思う。最後にこれからの20年が卒業生にとって精神的な成長のための重要な期間となることを願っている。



1994年
9月21日
発行

「祝 新研究棟・図書館の落成」9月22日竣工式 「新たなる覚悟」 英語科長 竹ノ内 信行

本学の創設準備に必死だった昭和47年(1972年)に建設会社が作成した、秦野キャンパスの完成予想レプリカを見た。その小さな模型を目にしてから22年余り、4号館竣工という今日の日を待ち続けた一人として、その思いは言い尽くせぬものがある。この22年間に他大学の図書館に案内される機会があったが、本学でも図書室ではなく、図書館で一日も早く書物を広げられたらと思っていた。研究室も冬は寒く、暑い時期は1時間いることも忍耐力が要求された。しかしこれらは過去のこと、大学も冬の時代に入ったと言われ、良き授業が重視される。4号館への移転を契機により良き講義ができるよう、更なる努力への覚悟を心に秘めている。



2006年
5月31日
発行

「2006年度オリエンテーション・キャンプ ようこそ上短へ」



2006年4月8日(土)新入生261名(欠席13名)はオリエンテーション・キャンプに参加するため、桜が咲き乱れる秦野キャンパスに集まり、2年次生ヘルパー38名とともにミサに参加した。その後、静岡県御殿場市の「東山荘」に移動し、最初のプログラムである学生生活をテーマにしたグループ別の話し合いに参加した。夕食後は

恒例のキャンプファイヤーを行い、翌日の午前中はスポーツ企画で汗を流し、アドバイザー教員とクラス単位で昼食を取った。1泊2日のキャンプは無事終了した。キャンプの最大の目的は、「上短に入学したからには、勉学も課外活動も思いっきりやり、次のステージにつなげる」というメッセージを伝えることにある。



2011年
12月16日
発行

「2012年4月から上智大学短期大学部に名称が変更」

上智短期大学は2012年4月より、「上智大学短期大学部」に学校名を変更することが文科省への届出書が受理されたことにより、正式に決定した。これにより上智大学との連携が強化され、上智大学特別編入学の募集枠が現行の17名から22名に拡大することが学院の会議で発表された。その他にも本学学生が上智大学の授業科目を履修し、単位認定できる制度のほか、四谷キャンパス中央図書館やPCルームを利用できるよう、準備を進めている。



2018年
6月10日
発行

「聖マリア寮の運営移管と 閉寮について」

聖マリア修道女会によって設立された聖マリア寮は2018年4月より学校法人上智学院に運営が移管され、2020年3月に閉寮することとなった。運営に携ったシスターのメッセージが掲載された。「…1973年に聖マリア寮が創立されてから、寮長、寮係として長い間寮生と生活を共にしました。『聖マリア寮』は、最初から手作りの寮でした。寮の規則も自分たちで作りました。秦野の单调な生活を彩るユニークな寮祭も手作りでした。静謐時間の暗闇の中で、生涯の友情を育んだ寮生も多かったと思います。逞しい寮生と夢を共有できたことに感謝。」(Sr.羽場勝子)



2023年
12月8日
発行

「創立50周年を迎えて」

学長 山本 浩

創立当初は上智短期大学という校名だったが、2012年に上智大学短期大学部に改められた。入学定員250名であること、英語科のみの女子短大で秦野市に所在することなどは50年間変わっていない。学生は昔も今も英語をしっかりと学びたいという強い意欲を持って入学し、本学はその意欲に応えるカリキュラムを編成し、徹底的な英語教育を行ってきた。また、サービスラーニング活動では長年にわたり、在学生の多くが秦野市の小学校での英語教育支援や外国につながる児童や市民への日本語支援活動を行ってきた。2025年度以降の学生募集を停止することが決定されたが、本学は最後の学生が卒業するまで変わらない水準の教育と研究を維持するつもりである。



2025年周年式典 金祝・ルビー祝・銀祝 10月25日

3期合同の周年式典は総勢88名の参加者を迎え、金祝・ルビー祝・銀祝、記念ミサ（司式司祭：サリ・アガスティン理事長 共同司式：トーマス・ヴァルキー神父様）、周年式典を4号館411教室、茶話会は412教室で開催しました。式典には、サリ理事長、山本学長にご臨席いただきました。

2025年 周年式典挨拶

上智大学短期大学部ソフィア会会長
平野 由紀子

卒業50周年を迎えた金祝の1期生のみなさま、卒業40周年を迎えたルビー祝の11期生のみなさま、卒業25周年の銀祝の26期生のみなさま、おめでとうございます。

一昨年、母校の創立50周年を迎えて、今年初めて1期生の卒業50周年をお祝いすることが出来たこと、とても嬉しく思います。そして、今回は秦野キャンパスで行う最後の周年式典となりました。

すでにお知らせしている3月7日のホームカミングでは短期大学部ソフィア会最後の総会を開催し、そこで正式にご報告いたしますが、2026年4月から四谷の上智大学ソフィア会に移行することになりました。今後の周年式典は四谷キャンパスで行う予定です。

今日は短い時間ですが、学生の頃の私たちに戻り、青春時代を再び楽しんでいただきたいと思います。

改めまして皆さまにお祝いを申し上げるとともに、今後のソフィア会活動への一層のご協力をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。



金祝に感謝して

1期生代表挨拶 伊集院 衣恵

同期の皆様、金祝おめでとうございます。

振り返ると、上智短大での2年間があったからこそ今の私達だと思います。長い50年間に夫々に絶えず挫折があったと思います。

私事で言えば、英語と音楽とキリスト教に興味があり、進路選択に迷いながら導かれてこの短大に入学しました。

小さな芽を卒業後も育てて下さった恩師の皆様、シスター方、ともに歩み支えあった友人達に感謝です。

学生時代にコップ先生の英文講読教材の『Gift from the sea 海からの贈り物』に、社会を海にたとえて「大きな海から贈られた多くの恩恵を、今度は海へ返そう…』という内容に共感いつも心の中で想っています。

さらに平和な社会造りのために祈りつつ生涯学び、「大きい海」へ贈り物を返し続けましょう。



ルビー祝 ごあいさつ

11期生代表挨拶 染谷 恭子

40年前の授業風景、窓からの富士山、カフェテリアのチーズケーキ…今も鮮明に覚えています。2年間、先生とクラスメイトから多くの刺激と学びを得て世界は広がりました。卒業後、私は立教大学に編入し「雇用法一期生」として社会人に。色々な意味で実験台世代でしたが、私たち世代の後に女性の選択肢が広がっているのはとても嬉しい。ダイバーシティ and インクルージョンは大きな社会テーマで、価値観の多様化は益々進みますが、自分にできることがあるという感覚はしっかりとあります。この感覚は秦野の自然溢れる上智短大で学ぶ喜びを与えて頂いたことに始まります。心から感謝申し上げます。本日は皆さまおめでとうございました。



銀祝 ごあいさつ

26期生代表挨拶 伊藤 桃子

本日は金祝、ルビー祝、そして銀祝という節目を皆様と共に迎えられます事を心より嬉しく思います。私にとって秦野キャンパスのイメージは「澄んだブルー」です。朝の光を受けて輝く通学バスの青、そして高く澄んだ空—その二つのブルーは記憶の中で静かに溶け合い、学生時代の原風景として心に残っています。この清々しいキャンパスで私達に多くの学びと温かな導きを下さり、今は空の上から見守って下さっている先生方に、深く感謝しております。上短で培った学びは確かに光となり、今の歩みを支えてくれています。秦野での祝祭は今回が最後ですが、先生方が残して下さった学びの灯を、これからもそれぞれの空の下で輝かせていきたいと思います。



ホームカミング 2026 & 臨時総会 2026年3月7日(土)

秦野キャンパスでは最後になるホームカミング 2026と、これからの上智大学短期大学部ソフィア会のあり方の説明及び会員の承認をいただくべく、臨時総会を開催する予定です。詳細のご案内はHPおよびハガキにてお知らせします。

2025年度総会

今年度の総会議案はHPに掲載させていただき、活動報告、2024年度決算報告、すべて承認されました。詳細はHPをご覧ください。

上智大学短期大学部ソフィア会(同窓会)

2024年度 決算報告

(2024年4月1日～2025年3月31日) 2025年3月31日現在

(単位：円)

【収入の部】	費目	金額	備考
前年度繰越金	31,697,140		
2024年度収入			
同窓会会費	2,100,000	@20,000×105人分	
総会及びルビー・銀祝参加費	289,000	ルビー・銀祝参加費(@6,000×47名、祝状代@1,000×7名)	
寄付金	21,141	ソフィア会活動費 募金箱収入	
利息	284,409	上智学院預り金利息、普通預金利息(282,515+1,552+342)	
(2024年度収入小計)	2,694,550		
合計	34,391,690		

【支出の部】	費目	金額	備考
パーティ一代その他	319,052	ホームカミング及びルビー祝・銀祝パーティ、花代等	
通信費	143,400	同窓会事務室通信費(インターネット料金等)	
交通費	27,026	役員交通費	
文具及び消耗品費	5,389	文具代、コピー代等	
会議費	157,506	オンライン会議ツール代(zoom) 他	
郵送費	1,087,301	会員あて郵便発送費、郵便代、宅配便等	
広告宣伝費	156,500	短大ソフィア会HP維持管理費、卒業生配布クリアファイル代、同窓会案内チラシ代など	
慶弔費	0		
交際費	0		
送金手数料	5,940		
寄付金	0		
(2024年度支出小計)	1,902,114		
次年度繰越金	32,489,576		
合計	34,391,690		

2024年度ジェラルド・バリー賞 2025年3月14日 卒業式
受賞者からのコメント (一部抜粋)

上智大学短期大学部で過ごした2年間は、自分の成長を強く実感することができた時間でした。あらゆる授業や課外活動に参加し、学びを深めることを意識していました。授業の合間や放課後には、先生方や教職員の方々、友人たちと対話を重ね、ときには図書館や食堂で自分の時間を過ごした日々もありました。これらすべてが、ここでしか得られなかった貴重な時間でした。「どんなこともいつか必ず繋がる」ということを信じ、歩み続けてきたからこそ、短大生活に誇りを持ち、この賞をいただけたことにも心から喜びを感じることができたと思います。

最後に、この賞をいただいたことで得た希望と自信を糧に、今後もさまざまに挑戦し、新たな知識や経験を追求し続けたいと思います。

三品 小英桜

2024年度 学位授与式



第51回学位授与式を2025年3月14日(金)に挙行し、106名の学生が卒業した。山本浩学長は式辞の中で次のように述べ、卒業する学生を祝福、激励した。

「英語を勉強した皆さんにはご存じとは思うが、イギリスの大学やアメリカの多くの大学では、卒業式のことを行なうことを commencementと呼ぶ。日本語の“卒業”は学業を終えたことを意味するが、英語では「何かを新しく始める」という意味である。私は、皆さんにとって今日の卒業はまさに commencementであると思う。皆さんには上智大学短期大学部での2年間の教育によって成人し、それぞれが選び取った新しい環境でこれまでと違った勉学や仕事を明日から新たに始める。これから皆さんひとりひとりが素晴らしい人生を送ることができるよう、そして神様が皆さんの行く手を絶えず明るく照らしてください」と祈っている。」

続いて上智学院理事長、ソフィア後援会会長、ソフィア会副会長から祝辞を賜り、学業等で最も顕著な功績を残した学生にジェラルド・バリー賞、2名の学生に準賞が授与された。卒業生代表からの謝辞があり、在学生代表からの送辞で式は締め括られた。2025年度9月学位授与式は2025年9月16日(火)に執り行われ、2名の学生が卒業した。



平野幸治先生に名誉教授の称号を授与



長年にわたり本学に奉職し、研究業績を積まれ、大学運営に貢献し、たくさんの教え子たちを育て社会に送り出してきた平野幸治先生に、学長より名誉教授の称号が2025年5月13日(火)に授与されました。本学の発展を支えてくださった功績と貢献に深い敬意を表すとともに、心より感謝申し上げます。

[平野名誉教授よりコメント]

■名誉教授となって

上短で勤務した期間を誇張的に表せば「一生懸命」に「一所懸命」で送った。授業や英米のmodernistの文学運動の研究や日本の高等教育の認証評価活動、夏季や春季にゼミ生の研究発表で秦野セミナーハウスやクラブハウス、後年は軽井沢セミナーハウスの施設を利用した学生指導等、様々な活動に従事した私を名誉教授に推薦して下さった教職員の皆様に感謝を申し上げたい。特に思い出るのは、秋のSJ祭になる前日に仮設の舞台が組まれ、その上で楽器や学生の歌声が響き、寮生のセビジャーナスやダンスサークルのパフォーマンスで賑わった前庭のことである。“That time of year thou mayst in me hold”で始まるソネット73でW. Shakespeareは「この前まで美しい声で小鳥たちが歌っていた聖歌隊の席」と吟い人生を季節の移ろいに喻え、その喪失感を述べている。改めて秦野キャンパスの持つ豊かさに感謝する。



2024年度 グッドティーチング賞

2024年度グッドティーチング賞は、狩野晶子教授と若松健太非常勤講師が選出された。グッドティーチング賞は、教育実践に顕著な成果をあげた教員に対し、その功績を表彰する制度で、学生による授業評価アンケート結果も選考基準の一つとなる。

[受賞した狩野教授のコメント]

この度は栄えある賞をいただきありがとうございます。良い授業とは教員だけで創れるものではありません。学生たちの主体的な参加が必須です。狩野の授業では、クラスメイトの意見や発表や書いたものなど相互評価する中で、お互いに尊重しながら、さらに良くしていくためには何をどうしたらよいかを具体的に提案し合ってもらいま



上智大学短期大学部 2024年度決算・2025年度予算			
	科 目	2024年度決算	2025年度予算
教育活動収支	学生生徒等納付金	189,675	63,479
	手数料	520	340
	寄付金	950	0
	経常費等補助金	14,847	4,667
	(国庫補助金)	(14,827)	(4,667)
	(地方公共団体補助金)	(19)	(0)
	付隨事業収入	334	0
	雑収入	28,811	4,758
	教育活動収入計	235,137	73,244
	人件費	366,924	271,660
事業活動支出の部	(退職給与引当金繰入額)	(37,798)	(33,534)
	教育研究経費	253,063	231,058
	(減価償却額)	(46,198)	(44,188)
	管理経費	57,611	48,189
	(減価償却額)	(5,444)	(5,284)
	教育活動支出計	677,599	550,906
	教育活動収支差額	△ 442,462	△ 477,662
	受取利息・配当金	5,381	0
	その他の教育活動外収入	0	0
	教育活動外収入計	5,381	0
教育活動外収支	借入金等利息	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0
	教育活動外支出計	0	0
	教育活動外収支差額	5,381	0
	経常収支差額	△ 437,081	△ 477,662
	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	602	82
	(施設設備寄付金)	(50)	(0)
	(現物寄付)	(552)	(82)
	(施設設備補助金)	(0)	(0)
特別収支	特別収入計	602	82
	資産処分差額	3,336	241,219
	その他の特別支出	0	0
	特別支出計	3,336	241,219
	特別収支差額	△ 2,734	△ 241,136
	〔予備費〕		0
	基本金組入前年度収支差額	△ 439,815	△ 718,799
	基本金組入額合計	△ 5,690	0
	当年度収支差額	△ 445,506	△ 718,799

※各欄の金額は四捨五入しているため、表中の計算は一致しない。

ます。このようなアクティブラーニングの手法を強く意識した授業スタイルが学生たちの肯定的な評価を得たことで、これまで自分が行ってきた工夫や準備が報われ、伝わっていました。



狩野 晶子
教授



若松 健太
非常勤講師

るのだと感じられました。今年度もそれぞれの学生にとって「よい授業」と感じられるように努めます。

